

第3章	<b>農牧業の自然条件</b>	学習日 月 日	名前
-----	-----------------	------------	----

教科書 P60～ 要点ノート P～38

(1)自然条件

ケッペンの気候区分でD(亜寒帯気候・樹木気候)とE(寒帯気候・無樹木気候)の判別は？

- 最暖月平均気温が10℃以上であるかどうか？
- ということは、樹木の生育には最暖月平均気温が10℃以上であることが必要ということ。

農作物が発芽し、育成するには一定の自然条件(温度・降水など)が必要。

- 発芽に必要な気温 … (1 )
- 生育に必要な気温 … (2 )
- 牧畜に必要な年降水量 … (3 )以上、農牧業に必要な年降水量 … (4 500 mm )以上

これをケッペンの気候区分と合わせて考える

- BW … 目安として年降水量が250 mm未満 → 農牧業はできない
- BS … 目安として年降水量が250～500 mm → 牧畜はできる
- E … 最暖月平均気温が10℃未満 → 農作物の生育はできない。

(5 )… 作物の生育期間中の平均気温の合計のこと。稲は2400℃以上、小麦は1900℃以上ないと生育できないなど、必要な数値が目安として存在する。

【自然条件】

① 気温

発芽には最低0～10℃、育成には最暖月平均気温が10℃以上必要  
積算温度は、水稲は(6 )、小麦は(7 )以上必要

② 降水量

- 250 mm未満 → 農牧業はできない(灌漑すればその限りではない)
- 250 mm以上 → (8 )
- 500 mm以上 → (9 )
- 1000 mm以上 → (10 )
- 2000 mm以上 → 熱帯作物の栽培

標高によっても変化する

高度が増えると、気温が低下するので、農業も変化

(例) アンデス地方

5000mの地点を0℃とした場合

↑

7000m(-12℃)  
( 永久凍土 )

6000m(-6℃) < 永久凍土の限界 >  
( 氷河 )

5000m(0℃)  
( リャマ・アルパカの放牧 )

4000m(6℃) < 耕作の限界 > = ばれいしょ・大麦  
( 球根、塊茎作物、穀物 = 小麦・とうもろこし )  
( 果樹 = りんご・なし・さくらんぼ )

3000m(12℃)  
( コーヒー・バナナ・さとうきび・綿花・とうもろこし )

2000m(18℃)  
( コーヒー・バナナ・さとうきび・綿花・とうもろこし )

1000m(24℃)  
( カカオ・バナナ・稲・とうもろこし・キャッサバ )

↓

山麓など低高度地域では熱帯性の作物が生産されるが、高度が高くなると、トウモロコシや小麦、そして果樹と変化していく。

高標高地域ではジャガイモや大麦の生産が行われ、耕作限界を超えると(11 )や(12 )の放牧がおこなわれるようになる。

土地が平坦か傾斜地であるかということも大切

平坦な土地

- (13 )地 … 低くて湿度が高い土地 → 稲作が行われやすい
- (14 )地 … 高く乾燥している土地 → 畑作が行われやすい

傾斜地

雨などによって土壌浸食が起こりやすい

- (15 )… 等高線に沿って畝をつくって作付けをする
- (16 )… 山の斜面などに階段状の水田を作る、アジアモンスーン地帯に多い

